

(2) 報告「女性獣医師支援特別委員会 報告」

女性獣医師支援特別委員会 副委員長 稲垣靖子

【はじめに】

現在、内閣の成長戦略において「女性の活躍が中核をなすもの」と位置づけられ、「女性の活躍推進」に向け、様々な政策が掲げられている。

私たち獣医師の分野でも、獣医系大学の入学者の半数は女性が占め、女性獣医師の割合は年々増加している。

一方、出産や育児により離職し、復職が困難な状況にある女性獣医師も少なくないことが指摘されている。

このような状況のもと、女性獣医師が働きやすい環境づくりを目指すことは、すべての獣医師が活躍できる環境づくりにつながるものであり、日本獣医師会では、女性獣医師支援特別委員会を設置し、活動を開始した。

【これまでの活動状況】

第1回委員会（平成25年11月13日）

第2回委員会（平成26年6月3日）

第3回委員会（平成26年8月26日）

昨年度は、①女性獣医師の現状と支援対策、②獣医療提供体制整備推進総合対策事業（農林水産省補助事業）について意見交換し、同事業で実施する「獣医師の就業環境等に関する現況調査」と連携していくこととした。

今年度は、同調査の結果の概要や、各委員の経験等に基づき、獣医師の各就業現場における現状と課題、必要な対策について検討をすすめ、10月に中間報告をとりまとめ、理事会に報告した。

【獣医師の就業環境等に関する現況調査】

①調査目的 女性獣医師の就業環境の実態を把握し、就業支援のための基礎資料とする。

②実施期間 平成26年1月17日～2月16日

③実施方法 インターネットアンケート方式

④回答者 全国の調査協力獣医師 4,371名

内訳 男性67% 女性33%

職域構成比

診療業務 27.8%（産業動物12.3% 小動物13.5%）

診療以外の獣医業務 65.5%（公務員56.0%）

その他 6.7%

【調査結果の概要】

(1) 獣医師が抱えている不安

(ア) 労働条件

労働条件については職域による差が大きく、「労働時間が長い」「休暇がとれない」と感じている割合は、小動物診療では男女とも約7割と高いのに対し、産業動物診療では4割、公務員では2割であった。小動物診療は、個人や小規模施設が多いことから、労働環境が十分に整備されていない実態が伺えた。一方、公務員では「給料が少ない」とする割合が半数を超え、「期待していた仕事の内容でない」「やりがいを見つけられない」とする割合も診療分野と比較して約3割と高く、公務員獣医師の人材確保には処遇改善が課題であることが伺えた。

(イ) 技術や知識経験

「技術的に自信がない」「知識や経験が不足している」と感じている割合は、各職域とも女性の方が高く、産業動物診療69%、小動物診療63%、公務員55%と半数を超えた。ただし、技術や知識等については経験年数によって左右されることから、男女の年齢構成の差が影響していると思われ、獣医師資格取得後の実践的な研修システムの構築が求められていることが伺われた。

(ウ) 仕事と妊娠や育児等との両立

「妊娠中の仕事の継続」、「仕事と育児や家事との両立」について、不安を感じている女性は多かった。特に、「妊娠中の仕事の継続」については、産業動物診療で7割、小動物診療6割が、公務員でも3割と、多くの女性獣医師が不安を感じていた。

また、「仕事と育児や家事との両立」、「必要なときに短時間の勤務ができない」と感じている女性は、産業動物、小動物診療ともに約半数を占め、ライフステージに応じたきめ細かいサポートが必要であることが伺えた。

(2) 女性獣医師への就業支援の実態

(ア) 女性が働きやすい職務環境

男女差のない研修や昇任昇格制度、女性用被服の支給、更衣室等については、どの職域でも、比較的整備されているとの回答が多かった。

一方、「有給休暇の取得しやすさ」については、診療分野で不十分だとする回答が多く、特に小動物診療の女性は、過半数が不十分と回答した。

(イ) 子育て支援制度

公務員では、「育児休業や子の看護休暇」「残業や時間外労働」「保育園等への送迎」への配慮など、「子育て支援制度」について、比較的整備されているとの回答が多かった。一方、診療分野では不十分とする回答が多く、特に、小動物診療の女性では、多くの設問で不十分とする回答が半数を超えた。特に、「産休等の代替者を確保」については、不十分とする回答が多く、産業動物診療で8割、小動物診療で7割、公務員でも5割であった。

このほか、復職のための研修制度、情報の提供、相談窓口の整備、モデルケースの紹介についても、不十分との回答割合が高く、育児や出産休暇の取得、スムーズな職場復帰など、子育てを支援するための就業環境の整備は、必ずしも十分でない実態が伺えた。

(3) 現在無職である女性獣医師の意見

現在無職である女性の意見は次のとおりであった。

離職理由は「妊娠・出産」「育児」「結婚」が多く、復職していない理由は、「育児」「適当な職場がない」「家事」が多かった。また、復職については、短時間勤務など条件があれば獣医師資格を生かした仕事につきたいとの回答が多く、家事や育児等と両立しつつ獣医師として働きたいとの意欲をもっていることが伺えた。

【現状の課題と今後の対応】

今回、男女4,000名以上の獣医師の協力を得て現況調査を行った結果、獣医師の就業環境、特に小動物診療は、労働条件、妊娠や出産への配慮、子育て支援制度が整備されておらず、女性獣医師にとって働きやすい環境とはいえない実態が明らかになった。

なお、長時間勤務、休暇がとれない等の労働条件の改善、給与などの処遇改善、卒後研修の充実等は、男女を問わず獣医師共通の課題であり、女性獣医師が働きやすい環境を整えることは、すべての獣医師にとって、ワークライフバランスを保ち、活躍しやすい環境づくりにつながると考えられた。

そこで、女性獣医師の活躍促進のために必要と考えられる施策、具体的な取組みを以下に提案する。

(1) 女性獣医師の活躍促進のための理解醸成

女性獣医師の活躍を促進することの意義、労働条件の整備など支援策の必要性について、獣医師全体で理解醸成が必要である。特に小動物診療分野では、雇用者のコンプライアンス意識向上、セミナーの開催、手引書の作成など、職場全体の意識改革を強力に進める必要がある。また、今後の獣医療を担う獣医学生に対する就業教育も大切であると考ええる。

(2) 女性獣医師が就業を継続しやすい環境づくり

女性が出産、育児を経験しつつ、獣医師として就業を継続し、キャリアアップするためには次のような環境づくりが必要と考えられる。

(ア) 勤務形態の多様化の促進 一旦離職しても、短時間勤務など育児と両立できれば復職したいという女性獣医師は多い。ワークシェアリングなど多様な勤務形態を調査検討し、その活用を促進するための給与や保

険制度の整備が必要である。

(イ) 出産・育児休暇を取得しやすい環境の整備

女性獣医師が安心して出産や育児休暇を取得し、就業を継続するためには、意識改革とともに、代替者の確保が必要である。そのため、OBなどを活用した獣医師人材バンク、地域密着型の求人情報サイト、短時間勤務可能な就職希望者の情報共有など、代替者確保を容易にする仕組みの構築が必要であろう。

(ウ) 復職しやすい環境づくり

離職によるブランク、ロールモデルの不在、情報不足等で、多くの女性獣医師が不安を抱えている。その悩みに応え、必要な情報を得られるよう、アドバイザーや相談窓口の設置、技術研修や情報交換の場が必要である。なお、就職のための情報の入手先として、インターネットとの回答が多かったことから、セミナー形式の集合研修のほか、インターネットを活用したeラーニング等も有効であろう。

【おわりに】

近い将来、獣医師の世界でも女性がほぼ半数を占めることとなる。女性獣医師が様々なライフステージのなかで、自信と誇りをもって生き生きと活躍を続けられる職場は、男性獣医師を含め、すべての獣医師が活躍しやすい職場である。このことを、あらためて関係者全員が共有し、よりよい獣医療の提供、獣医師の社会的地位向上につなげて行きたいと考える。

2015年2月13日 平成26年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会

すべての獣医師がより活躍できる環境づくりに向けて
－ 女性獣医師の就業現場から －

女性獣医師支援特別委員会活動報告



神奈川県湘南家畜保健衛生所長
(女性獣医師支援特別委員会副委員長)
稲垣 靖子

1 女性獣医師支援特別委員会

<目的> 女性獣医師のキャリアアップ・就業継続支援

委員長	栗本まさ子 (日本乳業技術協会)
産業動物診療	荒井 桂 (オホーツク農業共済組合) 石田真知子 (千葉農業共済組合連合会)
小動物診療	嶋田直子 (北海道函館市) 西木千絵 (東京都八王子市) 三谷邦子 (福岡県福岡市)
公務員	稲垣靖子 (神奈川県湘南家畜保健衛生所) 及川知子 (横浜市健康福祉局) 木村哲子 (東京都動物愛護相談センター) 前田育子 (茨城県県西家畜保健衛生所)

1 女性獣医師支援特別委員会の活動状況

○委員会

- 第1回委員会（平成25年11月13日）
- 第2回委員会（平成26年6月3日）
- 第3回委員会（平成26年8月26日）
- 第4回委員会（平成27年1月20日）

○アンケート調査（平成26年1月～2月）

「獣医師の就業環境等に関する現況調査」

○中間報告（平成26年10月31日）

女性がより活躍できる環境づくりに向けて

－ 獣医師全体のワーク・ライフ・バランス改善のために－

2 アンケート調査

○調査目的

女性獣医師の就業環境の実態を把握し、
就業支援のための基礎資料とする。

○実施期間

 平成26年1月17日～2月16日

○実施方法

 インターネットアンケート方式

○回答者

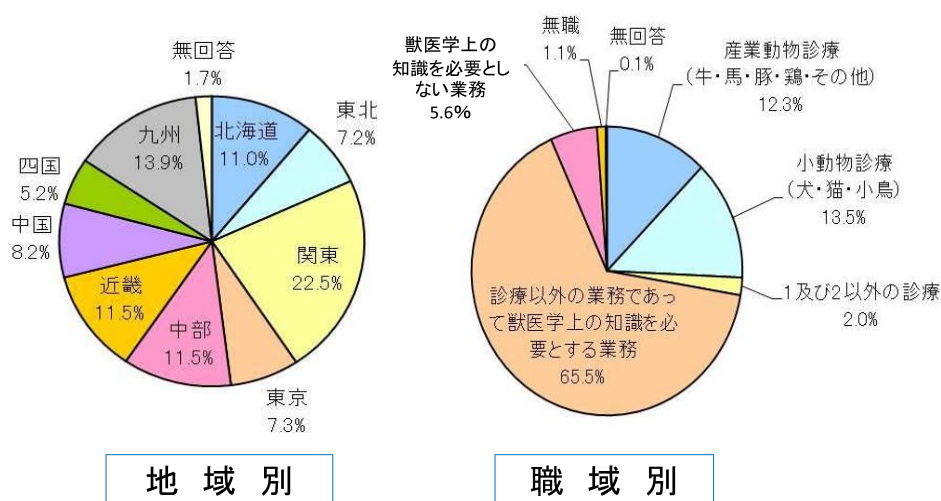
 全国の調査協力獣医師 4,371名

男性2,923名（67%）

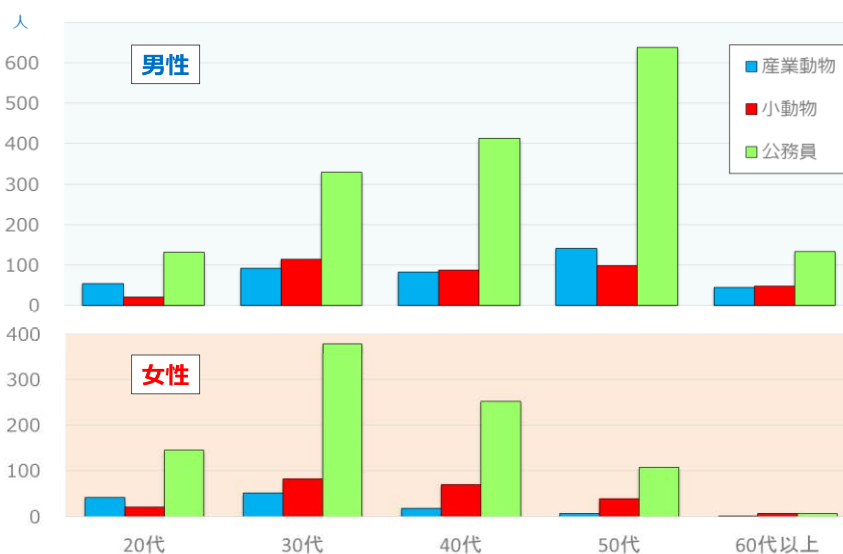
女性1,429名（33%）



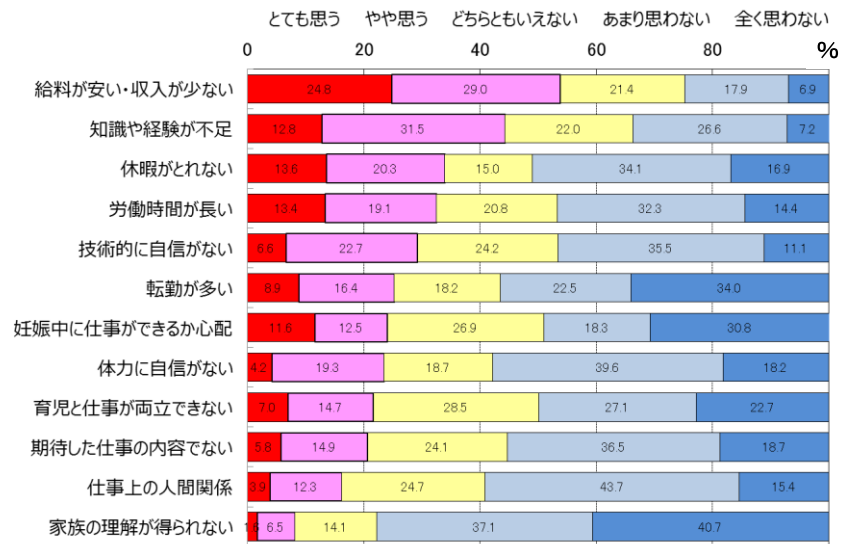
回答者の内訳（地域・職域）



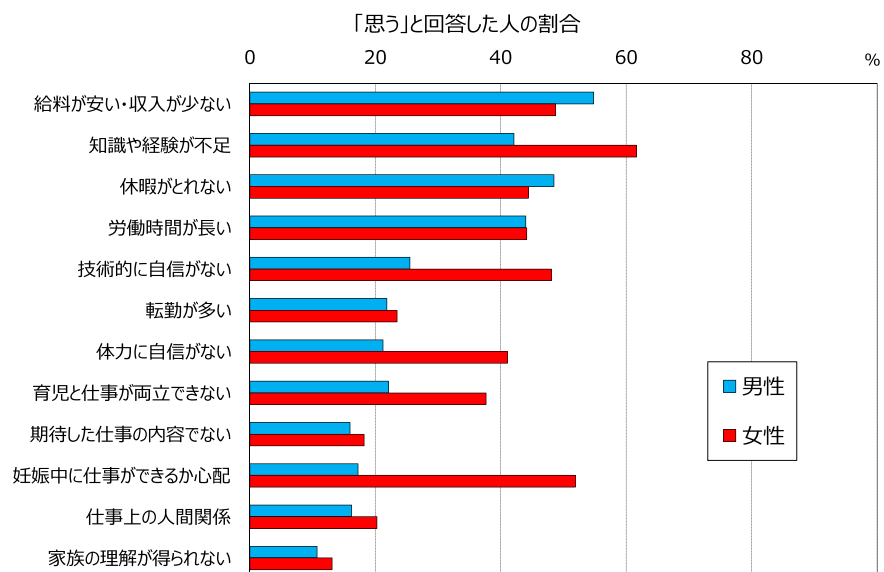
回答者の職域・年齢分布



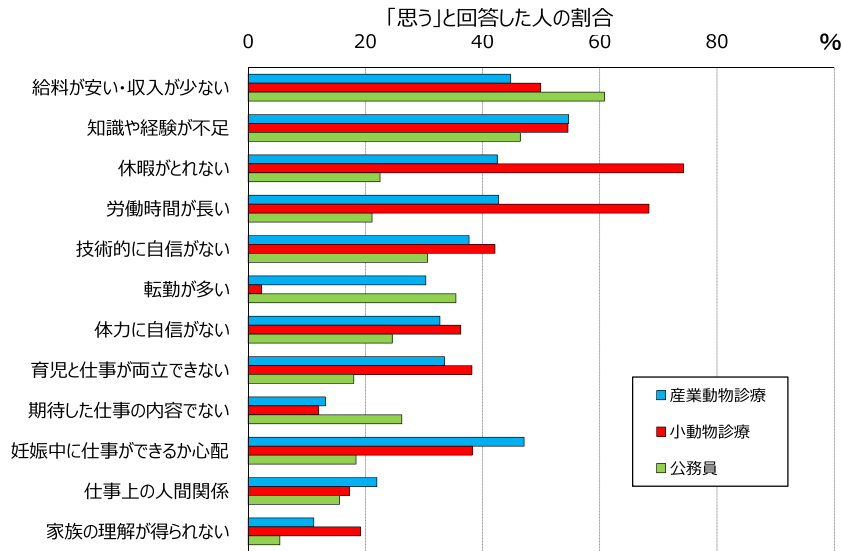
仕事上の不安や負担（全体）



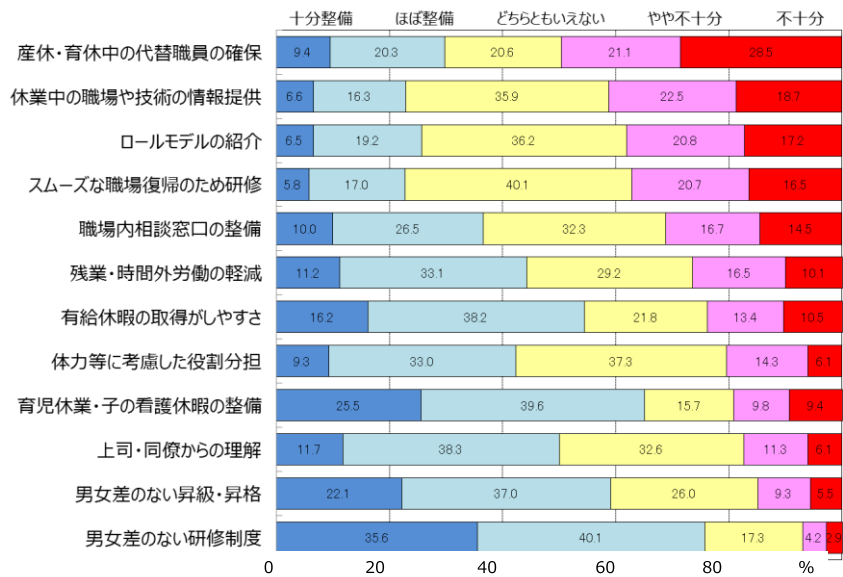
仕事上の不安や負担(男性・女性)



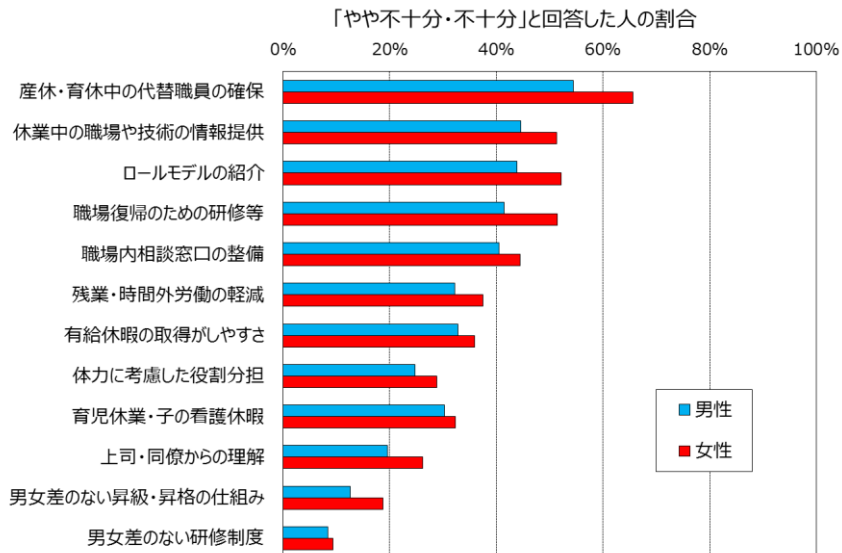
仕事上の不安や負担(職域別)



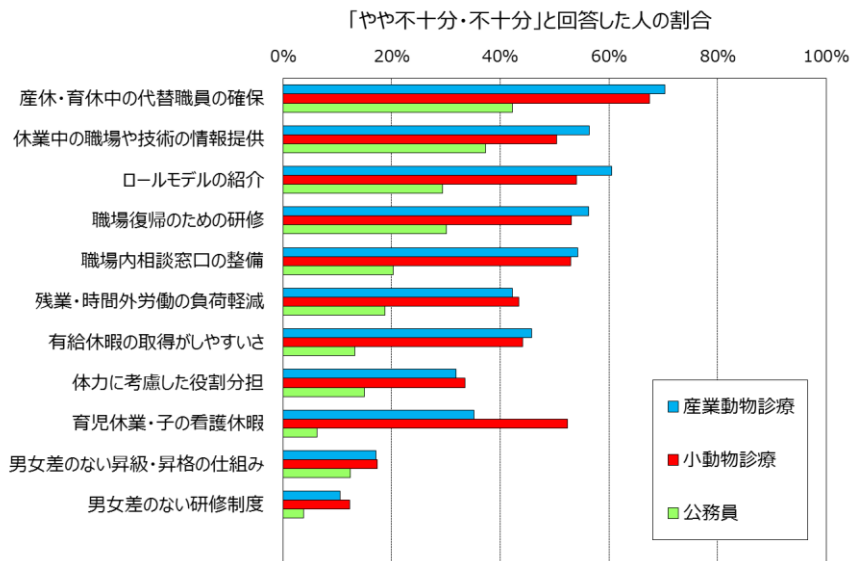
女性の就業支援の整備状況(全体)

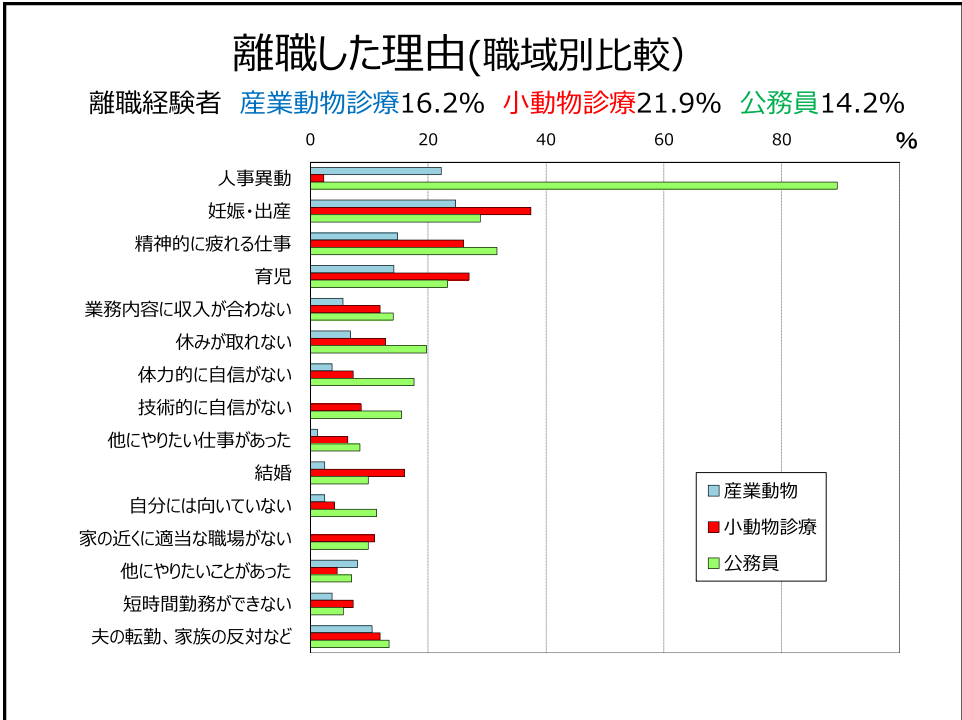
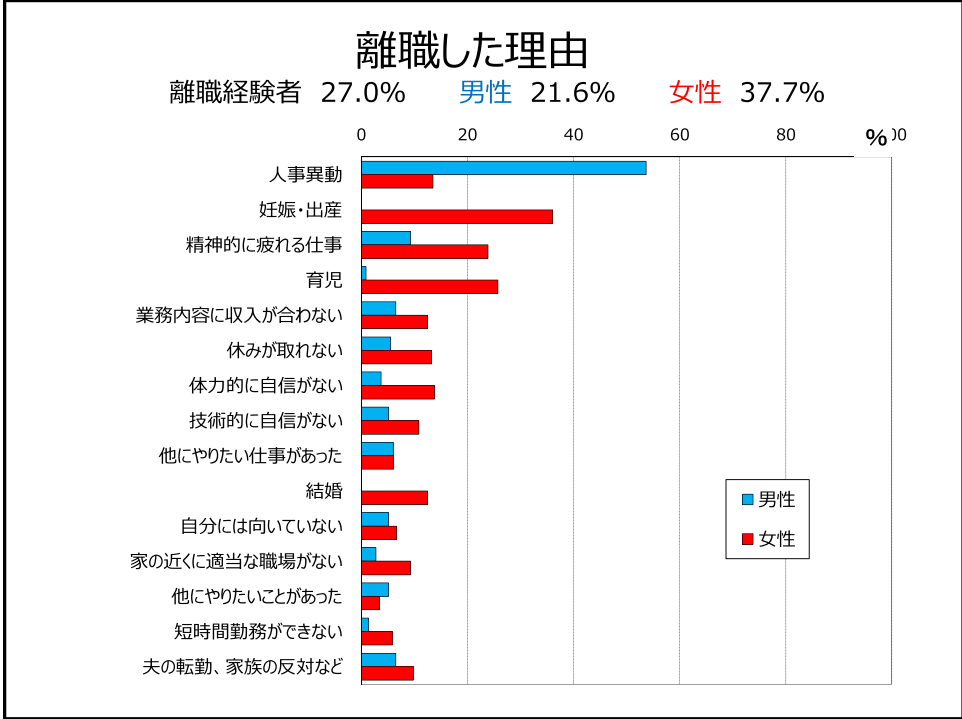


女性の就業支援の整備状況（男性・女性）

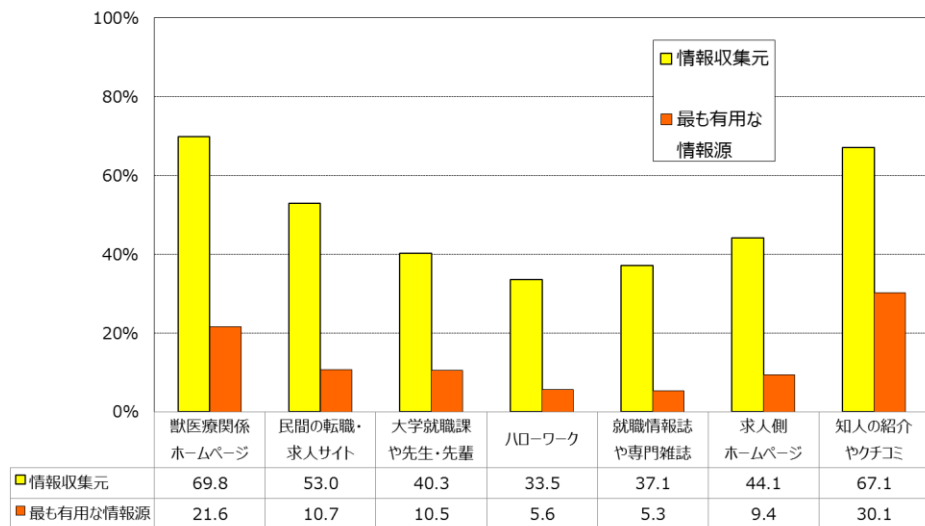


女性の就業支援の整備状況（職域別比較）





再就職のための情報収集について



2 アンケート調査のまとめ

○ 獣医師が抱えている不安

・女性獣医師の課題

育児と仕事が両立できない・妊娠中の仕事

・男女共通の課題

給料が安い・収入が安い（公務員・20～30代）

休暇がとれない・長時間労働（小動物診療）

知識、経験の不足、技術的に自信がない（20～30代）

○ 女性の就業支援の実態（不十分との回答が多かったもの）

産休中や代替職員の確保 休業中の情報提供

ロールモデルの紹介、スムーズな復帰のための研修

子育て支援のための休暇制度（小動物診療）

○ 離職について 離職経験者は27%

離職理由のトップは**人事異動** **女性：妊娠や育児**

3 今後の対応

(1) 女性獣医師の活躍促進のための理解醸成

- 獣医師全体の理解醸成
 - ・ 女性獣医師の活躍を促進することの意義
 - ・ 労働条件の整備など支援策の必要性
- 小動物診療分野における就業環境改善
 - ・ 雇用者のコンプライアンス意識向上
 - ・ 労務管理セミナー、手引書の作成など
- 獣医学生に対する就業教育
 - ・ 労働関係法令や給与・休暇・保険制度等に関する就業教育



3 今後の対応

(2) 仕事を続けやすい環境づくり

- 勤務形態の多様化の促進

短時間なら、職場が近くなら、仕事を続けたい。
⇒ ライフステージに応じて、
パート、短時間勤務、ワークシェアリング
多様な働き方を認め、互いに助け合おう
- 出産・育児休暇を取得しやすい環境の整備
 - ・ 産休・育休中の代替者の確保が必要
 - 獣医師人材バンク（OBや再就職希望者など）、
地域密着型の求人情報サイト……
 - さまざまな求人と求職を結びつける仕組みづくり



3 今後の対応

(3) 復職しやすい環境づくり

・休職・離職した獣医師

離職によるブランク、技術や経験の不足、職場の情報がない

多くの不安を抱えている

⇒ **仕事と子育てを両立しているロールモデルの紹介**

アドバイザーや**相談窓口**の設置

再就職のための技術セミナー

インターネットを活用した情報提供

技術情報・求人情報

eラーニングなどの研修



おわりに

近い将来、女性獣医師が約半数を占める。

女性獣医師が、様々なライフステージのなかで、

自信と誇りをもって生き生きと活躍し続けられる職場は

男性も女性もすべての獣医師が活躍しやすい職場である。

獣医師全体の
ワークライフバランス改善



よりよい獣医療の提供
獣医師の社会的地位向上

